

第 16 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
情報提供・相談支援部会 議事要旨

日時 : 2021 年 5 月 27 日 (木) 13:00-16:00

開催形式 : Web 会議システム (Webex) を用いたオンライン開催

1. 開会のあいさつ (都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 議長/国立がん研究センター 理事長 中釜 斉)

このコロナ禍の状況の中、本日の情報提供・相談支援部会にご参加いただき御礼申し上げます。

言うまでもなく、がん患者にとって情報提供・相談支援は非常に重要な機能である。どのようにこの機能を高めていくことができるのか、本日も皆さまと議論していければと考えている。

本日の出席者について

(情報提供・相談支援部会事務局/国立がん研究センターがん対策情報センター 八巻)
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会参加施設の情報提供・相談支援の責任者またはそれに準ずる方、実務者他の方々、計 123 名の方にご参加いただいている。

オブザーバー紹介 (がん対策情報センター 八巻)

NPO 法人 がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 様

NPO 法人 キュアサルコーマ 理事長/一般社団法人 日本希少がん患者会ネットワーク 副理事長 大西 啓之 様

2. 本日の概要

(情報提供・相談支援部会長/国立がん研究センターがん対策情報センター 高山)

資料 3 スライド 2~4

本日は中間評価の状況や妊孕性温存療法研究促進事業等について、厚生労働省よりご説明いただく。また、前回部会時に「がんと診断されて間もない方への情報提供資材」作成について提案し、部会として作成に協力していくことで合意した。1月よりワーキンググループを開催している。本日はその進捗状況をお伝えし、皆様からもご意見をいただきたい。

そのほか、オンラインで開催された地域相談支援フォーラムについてのご報告、国立がん研究センターより今年度の相談員研修の実施方法等についての報告を予定している。

3. 第3期がん対策推進基本計画の中間評価

ならびに小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について
(厚生労働省 健康局 がん疾病対策課 高橋 昌也 / 成田 幸太郎)

資料3 スライド5～29

1) 第3期がん対策推進基本計画の中間評価について

がん対策推進協議会 今後のスケジュール(案)として、2021年度中に評価指標を元に中間評価などに関する議論を行い、中間評価報告書を公表予定であること、また2022年度中に次期基本計画策定の議論を行い、2023年3月に第4期がん対策推進基本計画を閣議決定する予定であることが報告された。

拠点病院現況報告・がん登録・患者体験調査・遺族調査等、各種調査や評価指標によりがん施策の進捗や達成度を評価していく段階にあり、相談支援・情報提供が含まれる分野別施策の「3. がんとの共生」については、第75回がん対策推進協議会において議題として扱われたことが報告された。

2) 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

令和3年度から開始となった「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」の実施概要、実施要件について以下のような内容が紹介された。

- ・対象とする妊孕性温存療法は5種類〔①胚(受精卵)凍結、②未受精卵凍結、③卵巣組織凍結、④精子凍結、⑤精子凍結(精巣内精子採取術)〕
- ・年齢上限は男女ともに43歳未満、年齢下限は制限を設けない
- ・日本癌治療学会の診療ガイドラインにおける妊孕性低下リスク分類の高リスクから低リスクの治療、乳がん患者のホルモン療法のような長期間の治療によって卵巣予備能の低下が想定されるがん疾患、造血幹細胞移植が実施される非がん疾患、アルキル化剤が投与される非がん疾患が対象
- ・対象者の選定にあたっては、がん等の原疾患を担当する医師と、生殖医療を専門とする医師の両方で医学的適応について検討を行うこと
- ・都道府県でがん・生殖医療の連携ネットワーク体制が構築されていること
- ・妊孕性温存療法実施施設は、日本産婦人科学会または日本泌尿器科学会の指定を受けている施設であり、かつ、都道府県の指定した医療機関であること
- ・妊孕性温存療法実施施設が、定期的(年1回以上)に患者をフォローアップして、自然妊娠を含む妊娠・出産・検体保管状況等の情報を収集する
- ・助成については、所得制限は設けず、助成回数は2回まで

この事業の目的は、患者が希望を持って病気と闘ってもらうための取り組みであり、患者が円滑に事業に参加できるよう、情報提供・相談支援をお願いしたいとの説明があった。

-質疑応答-

(がん対策情報センター 高山)

中間報告について確認や質問があれば、お声をあげていただきたい。

(がん対策情報センター 若尾)

スライド 11「今後のスケジュール案」について、第3期の中間報告や第4期の基本計画はいつ頃出される見込みか。

(厚生労働省 高橋)

具体的スケジュールについては現在検討中。未確定部分があるため現状では報告できないが、分かり次第情報提供させていただく。

(がん対策情報センター 若尾)

第3期の中間報告から第4期の基本計画までが非常にタイトスケジュールのように思われるが、そのように進めていくという理解でよいか。

(厚生労働省 高橋)

ご指摘の通りタイトなスケジュールの中で進めていくことになると思われる。

(がん対策情報センター 高山)

続いて、妊孕性温存療法研究促進事業について、確認や質問があればお声をあげていただきたい。

(がん対策情報センター 若尾)

スライド 26「国のほうで普及啓発資材開発中」とあるが、実際にその資材が使えるようになるタイミングはいつか。

(厚生労働省 成田)

現在、研究班で資材を作成中であり、最短でも夏以降になると聞いている。年度内には何らかの提供が可能なのではないかと思われる。

(神奈川県立がんセンター 金森)

スライド 22「連携ネットワーク」について、国や都道府県が普及啓発を促進していくとのことだが、そのためにはネットワークに加わらなければならない等の取り決めがあるか。また、県内の協議会参加施設に対し、積極的にネットワークに加わり普及啓発

に協力してほしいとの通達を厚生労働省から出していただけるか。

(厚生労働省 成田)

現時点では厚生労働省や都道府県から通達を出す予定はないが、今後の検討課題とさせていただきます。

4. 診断されて間もない方向けコンテンツ 作成・査読・提供・活用・評価について (がん対策情報センター 高山 / 滋賀県立総合病院 山内 智香子)

資料 3 スライド 30～42

第 15 回情報提供・相談支援部会にて協力依頼のあった「がんと診断されて間もない人への情報提供資材(冊子)」作成について、検討チーム(ワーキンググループ)での検討過程が報告された。

検討中のサンプルについて提示があり、以下についての協力依頼があった。

- ・冊子査読(医師 2 名程度、その他の職種 2 名程度、7～8 月頃実施)
- ・冊子タイトルと表紙イラストに関するアンケート(6～7 月頃実施)
- ・冊子の効果測定のための調査(厚労科研研究班と協力し実施)

-質疑応答・ディスカッション-

(がん対策情報センター 高山)

確認や質問などあればお声をあげていただきたい。

(福島県立医科大学附属病院 佐治)

相談室があるということを知り、意味でこういった冊子は大事。どのくらいの厚さになるか。

(滋賀県立総合病院 山内)

ページ数としてはあまり多くないものになる見込み。告知した医師や関係する医療者がその場で渡すということをイメージして作成している。

(がん対策情報センター 高山)

ほかの冊子と同様のサイズ、最大 32 ページくらいのものを考えて準備をしている。

(がん対策情報センター 高山)

チャットでご意見をいただいている。すべての患者が治療にのぞめるわけではないの

で、がんと告げられたあなたへというタイトルではいかがか。

(滋賀県立総合病院 山内)

ご意見に関してワーキンググループで継続検討していきたい。

(がん対策情報センター 高山)

ワーキンググループのメンバーの皆様からも一言ご発言いただきたい。

(九州がんセンター 森田)

ワーキンググループでいろいろな視点から検討が行われた。もう少しブラッシュアップが必要であり、皆様のご意見、ご協力をお願いしたい。

(兵庫県立がんセンター 伊藤)

臨床で役立つものになればという思いでワーキンググループでは頑張って議論してきた。皆様のご意見をいただき、さらに完成度の高いものにしていきたい。

(滋賀県立総合病院 岡村)

こんな冊子があったら相談支援がしていきやすいのではということイメージしながら議論してきた。皆様のご意見をいただき、さらにブラッシュアップしていきたい。

(琉球大学病院 増田)

まずは皆様いろんなご意見をいただきたい。また、冊子が出来上がった後の話だが、この冊子を実際に活用していただく、なるべく主治医の先生から患者さんに渡してもらうにはどうしたらよいかなど、使い方や使い道のアイデアを頂戴したい。

5. 拠点病院の整備指針に関する調査結果を踏まえた部会としての検討について

(がん対策情報センター 高山)

資料 3 スライド 43～44

第 13 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（2020/11/05 開催）にて「拠点病院の指定要件に関する意見調査」を実施する旨の案内がなされており、現在、意見調査の準備中であること、この意見調査の結果をもとに、情報提供・相談支援部会として検討すべき課題や提言内容について協議をしていくことが報告された。

-補足-

(がん対策情報センター 若尾)

発出が来週、6 月第 1 週ぐらいになる見込み。これから指定要件の見直しであり、今後どのような指針が必要と思うかご意見をうかがう予定。ぜひご協力をよろしく願いたい。

6. 地域相談支援フォーラムの報告・質疑（金沢大学附属病院 岩谷 玲香）

資料 3 スライド 46～67

令和 2 年 11 月 28 日（土）に開催された北陸地区地域相談支援フォーラム～その方の気持ちを聴いて、受け止めることから始まる相談支援～について報告があった。

北陸地区として初めてのフォーラム開催であり、北陸 3 県を中心に 88 名の方が参加した。

開催にあたっては、開催形式の検討、使用する WEB 会議システムの検討、WEB 会議システムに慣れている相談員がいない中で当日の運営ができるのかという企画委員の不安等たくさんの課題があったこと、また特に Webex の操作については何度も繰り返し行い、操作方法がわからない場合にはみんなで共有し試行錯誤してきたことなどが報告された。

開催後アンケートの結果では「傾聴と共感における必要なスキルとマインドについて理解が深まった」「相槌や声のトーンなどの基本姿勢を学び、沈黙の意味を理解できた」等の回答が多くみられたこと、またオンライン開催については「移動時間の短縮と場所の制限がなく参加の幅が広がる」といったメリットもある反面「音声の聞きにくさや画像の提示、周囲の音が気になる」などの課題もあったことが報告された。

2021 年度は富山県にてグループワークも盛り込んだオンライン開催を、2022 年度は福井県での開催を予定していることが紹介された。

-質疑応答-

(がん対策情報センター 高山)

ご紹介のあった「オンライン研修企画者の手引き」については、各県の研修連絡担当者の方には送付している。それ以外でも、ご相談いただければ資料提供させていただくことは可能。

(佐賀大学医学部附属病院 井上)

大変参考になった。今年度グループワークを検討されているとのことだが、具体的にどのような手法で行う予定か。九州沖縄でもフォーラムを検討しているが、グループワークができないことが課題となっている。

(金沢大学附属病院 岩谷)

ウェブシステムの中でもグループセッションに分かれて実施できるシステムがあり、そちらを活用する予定。参加者同士で話し合える場を持てるようにしたい。

(佐賀大学医学部附属病院 松本)

オンライン開催を企画するにあたり、WEBに強いエキスパートがいない。トラブル対応者をどのように決めていたか、またどんなトラブルが起こったかをお伺いしたい。

(金沢大学附属病院 岩谷)

各県でトラブル対応の事務局を設置していた。事務局間での連絡については、ラインのグループ登録を行い、それを併用して行った。

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

(がん対策情報センター 八巻 / がん対策情報センター 高山)

資料 3 スライド 68～99

2021年度の相談員研修、認定事業等の予定が説明された。

基礎研修(3)については、第15回部会の際ハイブリッド型を予定していると案内したが、その後COVID-19の感染拡大・長期化が予想されたため、完全オンライン化に移行する旨を案内し4月に募集を行ったこと、また定員を大きく上回る応募があり、当初予定していた5日程に加え、10月に2日程追加開催する予定となったこと、受講決定者には受講決定通知を送付済みであることが報告された。

また、2021年7月30日(金)に開催予定の「施設別がん登録件数検索システム説明会」についての案内があった。

8. その他

オブザーバーよりコメント

NPO 法人 がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 様

久しぶりに参加させていただき改めて学ばせていただいた。コロナの大変な中ではあるが歩みを止めず取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

妊孕性温存療法研究促進事業について、予算化を大変喜んでいる患者さんが多くいる。ただ、こういったことが進むと妊孕性温存すべきであるという風潮になりかねないところもあり、患者さんの声をよく聞いてご支援いただきたい。

また、「がんと診断されて間もない方への情報提供資材」について、ぜひ告知後すぐのフォローをお願いしたい。それとともに患者会があるという情報提供もお願いしたい。増田先生のお話にあった通り、作るのはいいが活用してもらわないともったいないので、使い方についてもよくご検討いただきたい。

フォーラムについて、九州沖縄ブロックでは患者団体も一緒に参加させていただいている。九州沖縄ブロックも今後オンラインになるのかとワクワクしている。

NPO 法人 キュアサルコーマ 理事長／一般社団法人 日本希少がん患者会ネットワーク 副理事長 大西 啓之 様

今回参加させていただき感謝申し上げます。

妊孕性温存療法研究促進事業について、がん患者が子供を産もうと思うには、安心・安全面の情報が一番気になる場所であり、情報提供をしっかりとっていただきたい。

がん治療病院と保管病院が県をまたぐ場合もあると思うが、県をまたいでも連携が取れているので安心してよいということを伝えていただきたい。

また、ピアサポートについての最近の調査では、知っている方が 27%、一方ピアサポートが役に立ったという回答は 80% 近くとなっている。ぜひ、がん相談支援センター内や地域のピアサポートについての周知、連携もお願いしたい。

連絡事項（がん対策情報センター 八巻）

次回、第 17 回情報提供・相談支援部会は、2021 年 11 月 26 日（金）オンライン開催を予定している。

9. 閉会のあいさつ（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会事務局長／国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾 文彦）

本日報告された「がんと診断されて間もない方への情報提供資材」は非常に重要なものになると考えている。患者体験調査で拠点病院の患者さんのがん相談支援センターの認知度は66.4%、利用したことある方は14%程度であり、まだまだ十分とはいえない。この資材を現場の先生方に実際に活用してもらうにはどういう工夫があればよいか、という観点からぜひご意見いただきたい。

また、がんと診断されていない方が、いざというとき相談できる場所としてがん相談支援センターがあるということを知っておくことも重要である。がんについて、診断される前から知っておいていただく必要があるが、「がん相談支援センター」は、長くて覚難いという意見をいただいた。今後、親しみやすいニックネームなども含めた検討も必要ではないかと考える。

本日は、資料はがん情報サービスで公開しているので、都道府県の協議会の部会で共有をお願いしたい。